

学校便り 2月号

令和5年1月26日発行

和歌山市立岡崎小学校

「春はすぐそこに…」

「一月往ぬる 二月逃げる 三月去る」正月が終わったばかりと思っていると、もう三月が間近で、二月は格別早く過ぎるように感じるということだそうです。三月は間近といっても、連日寒い日が続いています。今、一年で最も寒い時期をあらわす「大寒」という時期で、1月20日から2月3日が大寒という時期だそうです。この大寒が終わるのが2月3日です。そこでこの日を「季節の分かれ目」ということで「節分」と呼びました。節分の翌日、2月4日は「立春」となります。この日は名前の通り、春が始まった第一日目となります。季節の分かれ目は年に4回あるのに、なぜ、冬から春になるときだけが「節分」という言葉として残ったのでしょうか。それは寒さを我慢していた冬から、命が始まる春が来るということで、冬から春への変わり目はとても大切だからだそうです。冬眠していた動物たちは春の訪れを感じ目覚めます。草木も芽吹き伸びていきます。そして、私たち人間も春は新しいスタートとなります。卒業して中学校に進学したり、上の学年に進級したり、大人は就職して仕事を始めたりします。だからこそ、この冬から春への節分が大事にされたのです。

さて、冬から春への節分の時期に、学校生活でも一年のまとめの大切な時期に入ります。とりわけ卒業を控えた6年生にとっては、小学校6年間の締めくくりに入ります。クラブや委員会活動などのバトンを下級生に渡していきます。そして、下級生はお世話になったお兄さんお姉さん達へ感謝の気持ちを届ける準備に入ります。また、学習面では一年間の総まとめの時期であり、理解が十分でなかった部分の補充をしていくことが重要になってきます。学習面・生活面それぞれにおいて、学年の締めくくりをしっかりと行い、新たな気持ちで、卒業・進学、進級を迎えられるように頑張りたいと思います。

私たち教職員も、今年度のまとめに向け、力を合わせて頑張りたいと思います。今月も変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(教頭 西村 里美)